

元素分析 テクニカル ノート

有機元素分析装置 MACRO CORDER シリーズ アルゴン (Ar) キャリヤーガス対応について (3)



ヘリウム、アルゴンを使い分けできる元素分析装置

第1回、第2回の特集でキャリヤーガスをアルゴン(Ar)ガスとする測 集 定についてご紹介しました。今回はヘリウム(He)ガス、アルゴン(Ar)ガ スをキャリヤーガスとして必要に応じて使い分けできる有機元素分析 装置 MACRO CODER JM1001 をご紹介します。

INDEX

~

特

 \checkmark

有機元素分析装置 JM1001 外観·機能 有機元素分析装置 JM1001 専用データ処理ソフトウェア+機能 まとめ



写真. 有機元素分析装置 JM1001 (左:正面、右:左側面)

上の写真が「<mark>有機元素分析装置 JM1001」</mark>になります。装置の大きさは、従来機の有機元素分析 装置 JM1000(大きさは幅 760mm、奥行き 585mm、高さ 485mm)とほぼ同じ大きさです。大 きな特徴として、キャリヤーガスの接続口には、装置の左側面にヘリウム/アルゴンガスの2つ を接続できます。

キャリヤーガスの切り替えは装置の左横に備え付 たスイッチで切り替えできます。(スイッチは「He」 「Ar」の表記あり)写真のようにスイッチが点灯し て、使用しているキャリヤーガスがどちらか、一目 でわかるようになっております。(写真はヘリウム ガスを使用中)

キャリヤーガスの切り替え機能はキャリヤーガス の切り替えの他、アンプ基板接続も内部で自動的に 変更されています。

右図の各ガスの熱伝導度が関係より、100℃の条件 で熱伝導度を比較すると、ヘリウムは分析対象ガス の窒素(N)、水(H)、二酸化炭素(C)よりも高いですが、 アルゴンは逆に分析対象ガスよりも低いです。その ため、検出器からのシグナルがネガティブになって しまうので検出器のフィラメントを入れ替える必 要が本来発生しています。

有機元素分析装置 JM1001 は、アンプ基板接続の 変更によって、検出器のフィラメントの入れ替えと 同じ効果を得ることができます。従来機の有機元素 分析装置 JM1000 にキャリヤーガスとしてアルゴ ンガスを流しても測定できないのは、このシグナル がネガティブになってしまう点にあります。



写真.キャリヤーガス切り替えスイッチ



キャリヤーガスは切り替えスイッチを押下することで変更できますが、配管内のキャリヤーガ スを完全に置換する必要があるため、実際の測定はベースシグナルの安定に半日程度の時間が 必要になります。

検出器からのシグナルがネガティブになる原因の熱伝導度、キャリヤーガス切り替え後のベー スシグナルの安定については第1回の特集でご紹介しております。



有機元素分析装置 JM1001 は、従来機の有機元素分析装置 JM1000 と同じようにオートサンプ ラーを取り付けることで、測定の自動化が可能です。オートサンプラーJMA1001 の大きさは従 来機のオートサンプラーJMA1000 とほぼ同じ大きさ(幅900mm、奥行き 590mm、高さ 460mm) です。最大検体数は 49 検体、分析中に試料ボートを追加可能などの機能を従来機のオートサン プラーJMA1000 より引き継いでおります。



写真.元素分析装置 JM1001 とオートサンプラーJMA1001

◎ここがポイント!

有機元素分析装置 JM1001 はキャリヤーガス(ヘリウム/アルゴン)を必要に応じて使い分け できます。キャリヤーガスは、切り替えスイッチによる1ボタンで変更可能です。オートサン プラーJMA1001 の据え付けなど、有機元素分析装置 JM1000 の性能を引き継いでいるため、 同じ使用感で利用することが可能です。

株式会社ジェイ・サイエンス・ラボ



2 有機元素分析装置 JM1001 専用データ処理ソフトウェア+機能

有機元素分析装置 JM1001 は「有機元素分析装置 JM1001 専用データ処理ソフトウェア+(以 下、データ処理ソフトウェア+)」を新しく付属します。

キャリヤーガスをアルゴンガスに置き換えた測定では、検量線「Y=ax²+bx+c」の利用を本特集 にて推奨してきましたが、「データ処理ソフトウェア+」はこれに対応しています。さらに、デ ータ処理の履歴を残せるなど、従来のデータ処理ソフトウェアの機能にはなかった新しい機能 が追加されています。



画像.JM1001 データ処理ソフトウェア+

データ処理ソフトウェア+は、有機元素分析装置 JM1001 で測定したデータを読み込みます。 上の画像のようにデータ処理ソフトウェア+のメイン画面にデータが表示されます。

データ処理ソフトウェア+は、基本的にはオフラインデータ処理を専門としますが、バックアッ プファイルの読み込みを設定することで、リアルタイムで測定データを確認できます。(リロー ド機能)

データ処理ソフトウェア+は、従来のデータ処理ソフトウェアで保存したデータ(DKO 形式、 DK2 形式)を読み込めますが、逆に、従来のデータ処理ソフトウェアは、データ処理ソフトウェ ア+で保存したデータ(DKEX 形式)を読み込むことができません。

試料テーブルに表示する項目(列)は、従来のデータ処理ソフトでは、分析値%、分析値∆%な ど、選択した一項目のみでしたが、データ処理ソフトウェア+では下の画像のように表示タブで チェックした項目(列)を横並びにして、いくつも表示することができます。

ファイル	ホーム 表示							
▼ H ▼ C ▼ N	 ✓ 分析値 (mg) ✓ 分析値 (%) ✓ 分析値 (⊿%) 	 ✓ シグナル ✓ ベース ✓ 感度 	✔ 理論値 (mg) ✔ 理論値 (%)	 ✓ 検量線式 ✓ 行番号 ✓ 検量線除外 	 □ 取込時間 ✓ 補正値 	 □ カスタム 1 □ カスタム 2 □ カスタム 3 	 □ 備考 1 □ 備考 2 □ 備考 3 	
	分析值 1	分析值 2	参考值	検量線	その他	カスタム式	借考欄	

画像. データ処理ソフトウェア+の表示タブ

「計算方法選択」は「JM1000 互換」、「全標準試薬」のどちらかを選択できます。

- 「JM1000 互換」は、従来のデータ処理ソフトウェアの計算方法です。測定した順に計算をします。標準試料の間に未知試料を測定した場合(下図参照)、4の未知試料は1~ 3の標準試料を検量線として計算します。6の未知試料は1~3、5の標準試料を検量線として計算します。
- 「全標準試薬」は、すべての標準試料を検量線として、すべての未知試料を計算します。
 4、6の未知試料は1~3、5の標準試料を検量線として計算します。



図. データ処理ソフトウェア+の計算方法

「検量線選択」は「Y=ax」、「Y=ax+b」、「Y=ax²+bx+c」から選択できるようになりました。 JM1000/1001 において、検量線「Y=ax²+bx+c」を利用できるのは、データ処理ソフトウェア +のみです。(検量線の標準試料は「検量線除外」機能で H、C、N の元素ごとに検量線の計算 から除外することも可能)

従来のデータ処理ソフトウェアと同じく「指定試料」機能を利用することで、任意の試料を指定 して、検量線、未知試料を再計算することができます。



株式会社ジェイ・サイエンス・ラボ

検量線は、グラフを表示させることができます。従来のデータ処理ソフトウェアでは、表示した 検量線のグラフデータは印刷のみ対応していました。データ処理ソフトウェア+では、検量線の グラフデータをクリップボードにコピー、画像データ(PNG形式)として保存、また、検量線式を テキストコピーすることも可能になりました。



画像 データ処理ソフトウェア+の検量線グラフ表示 (青色のプロット:標準試料、赤色のプロット:未知試料)

計算結果の保存方法は、データ処理ソフトウェア+のデータファイルとして保存(拡張子. DKEX)、 CSV 形式として保存、印刷して紙媒体として保存する、という方法があります。

CSV 形式として保存する場合、「CSV 形式」、「互換 CSV 形式」の2種類を選択できます。

- 「CSV 形式」は、データ処理ソフトウェア+の表示タブでチェックできる項目すべての データを保存します。
- 「互換 CSV 形式」は、従来の JM1000 のデータ処理ソフトウェアによる CSV 形式保存 と同じ形式で保存します。

												/
A	В	С	D	E	F	G	н	1.	J	к	L	
サンプル NO	"就科区分"	"就科名"	"試料量"	"H シグナル"	"C シグナル"	"N シグナル"	"H ベース"	"C ~~ - X"	"N ベース"	"H 理論值 %"	"C 理論值 %"	"N 理目
	1"捨て焼き"	***		57767	38305	20451						
	2 "ペース"	***		5281	4051	5511	5281	4051	5511			
	3"捨て焼き"	***		29236	19239	10995	5304	4060	5500			
	4"標準就料"	"馬尿酸"	30.2	27619	17964	10443	5327	4070	5489	5.06	6800	
	5"標準試料"	"馬尿酸"	41.26	34639	22409	12238	5350	4079	5478	~5.06		
	6"標準試料"	"馬尿酸"	50.2	40193	25888	13653	5373	4088	5467	X	00	
	7"標準試料"	"馬尿酸"	71.96	51706	33536	17201	5396	4097	5456	Ľ,		
	8 "標準就料"	"馬尿酸"	85.41	57891	37890	19399	5419	4106	5445	5.06	▕▋▋▋▋	
	9 "標準就料"	"馬尿酸"	99.89	63443	42196	21702	5442	4116	5434	5.06		(3
1	0 "ベース"	***		5549	4047	5138	5549	4047	5138		11 11	
1 1	1.114-018-01	***		E0024	20120	10/02	66.00	1055	5116			

画像. データ処理ソフトウェア+の CSV 形式で保存したデータ

4	A	В	С	D	E	F	G	н	L.	J	K	L	1 1	#存さ	れる琯	自日は試料名。	討
サン	·プル NO	"試料区分"	"試料名"	"試料量"	"H シグナル"	"C シグナル"	"N シグナル"	"H 理論值 %"	"C 理論值 %"	"N 理論值 %"	"H %"	"C %"	"N %"		1007		12
	1	"捨て焼き"	***		57767	38305	20451						4	치금	シバナ	- 川. 田会店	
	2	"ベース"			5281	4051	5511							十里、	291	ル、珪酬恒、	<u></u>
	3	"捨て焼き"			29236	19239	10995						+	r /= /0/	, ,		
	4	"標準試料"	"馬尿酸"	30.2	27619	17964	10443	5.06	60.33	7.82	6.6774577	124512200	7. 个	厅100(%	o, mg)、偏考です	
	5	"標準試料"	"馬尿酸"	41.26	34639	22409	12238	5.06	60.33	7.82	5,0813273		7.8		. 0.		
	6	"標準試料"	"馬尿酸"	50.2	40193	25888	13653	5.06	60.33	7.82	5 1992	00	.8182939		-		-
	7	"標準就料"	"馬尿酸"	71.96	51706	33536	17201	5.06	60.33	7.82	N.A	ing	.8081448	/	-		
	8	"標準就料"	"馬尿酸"	85.41	57891	37890	19399	5.06	60.33	7.82	5.1083691		1701	-			
	9	"標準就料"	"馬尿酸"	99.89	63443	42196	21702	5.06	60.33	7.82	4.9087118		(1923407				
	10	"~-7"			5549	4047	5138						<u> </u>				
	11	"油で協力"	100		59084	39139	19493					11					

画像 データ処理ソフトウェア+の互換 CSV 形式で保存したデータ

株式会社ジェイ・サイエンス・ラボ

印刷機能は、プレビューされた分析結果の表を印刷します。カスタム項目のラジオボタンを切り 替えることで、印刷する項目(列)を一部変更することも可能です。



画像. データ処理ソフトウェア+の印刷画面

印刷機能には従来の「統計値印刷」も可能です。試料ごとの検量線や、分析値、感度の他、分析 値の平均、標準偏差、RSD の値を印刷することができます。



画像. データ処理ソフトウェア+の統計印刷画面

データ処理ソフトウェア+上で行われた計算方法選択、検量線選択、データの保存などのデータ 処理の内容はすべて「イベント履歴」に記録されます。イベント履歴の機能は、データの正確性 を補完する目的で追加されたデータ処理ソフトウェア+の新機能です。JM100 を発売させてい ただいたころと比べ、データの信ぴょう性確保は重要な課題となっています。



画像. データ処理ソフトウェア+のイベント履歴

☺ここがポイント!

データ処理ソフトウェア+は、JM1001の専用データ処理ソフトで検量線「Y=ax²+bx+c」の計 算をすることが可能になりました。

計算方法の選択や検量線、データの保存など、データ処理の内容はすべて「イベント履歴」に記録として残すことができます。



今回の資料では、「有機元素分析装置 JM1001」と専用ソフトウェアである「データ処理ソフト ウェア+」について、ご紹介しました。改めてそれぞれのポイントをまとめます。

- 1. 有機元素分析装置 JM1001 について
 - キャリヤーガスとして、ヘリウムガス、アルゴンガスを必要に応じて使い分けることができること
 - キャリヤーガスは、スイッチを押すことで簡単に切り替えできること (実際の測定には半日程度の時間が必要になること)
 - オートサンプラーJMA1001を取り付けることで、自動測定ができること
- 2. 有機元素分析装置 JM1001 専用データ処理ソフトウェア+について
 - 検量線式の選択で「Y=ax²+bx+c」に対応したこと
 - データ処理ソフトウェア+上で行われたデータ処理は、イベント履歴を残すこと
 - 計算方法として、「全標準試料」で計算ができること
 - 計算結果や理論値などの項目を横並びにして表示ができること
 - 検量線グラフを画像データとして保存することができること
 - CSV 保存は、従来形式/新形式(全保存)が選択できること
 - 印刷プレビューでは、印刷する項目(列)を選択できること

「基礎実験結果」、「実際の測定結果」、「測定可能な有機元素分析装置」、全3回にわたって元素 分析におけるキャリヤーガスのアルゴンガス対応について、ご紹介させていただきました。

ヘリウムガスについては、医療/半導体関係の需給のひっ迫があり、特に現在は、コロナウイル ス感染症の影響により、先行きにはより注意が必要な状況です。元素分析装置をご利用の際は、 ぜひ、一度弊社分析装置をご検討ください。最後までご高閲いただき、本当にありがとうござい ました。

■お問い合わせ

株式会社ジェイ・サイエンス・ラボ 第二技術部(旧技術部 元素分析室) 〒601-8144 京都市南区上鳥羽火打形町3番地1 TEL 075-693-9480 FAX 075-693-9490 URL <u>http//j-sl.com/</u> Email <u>mailbox@j-sl.com</u>

株式会社ジェイ・サイエンス・ラボ